

トピック

官僚 残業見直し機運

霞が関 変わる働き方<上>

霞が関の国家公務員は、国として女性の活躍や働き方の見直しを進める立場でありながら、長時間労働が当然視されてきた。「このままでは組織がもたない」という女性職員の訴えを聞きながら、自らの働き方を改革する機運が高まっている。回つたり、現状を報告する。(針原隆子)

提言

「この質問、明日じゃなく、あさってのだ」
今月、国会質疑対応で野党議員の質問を受け取ったある省庁の課長補佐は驚いた。質問の通告が通常より早かったのだ。「前日の夜中まで作業しなくて済む」と、職員から歓迎の声が上がった。質問通告は従来、質問に立つ前日に行き職員が多く、その対応が国家公務員の長時間労働につながっていた。入省10、20年目の女性官僚を対象にした昨年4月の調査(回答者1万3千人)では、月60時間以上残業する割合が、子のない職員の45%、未婚が47.6歳の職員の33%もいた。残業する理由として、全体の67%が国会質疑対応を挙げた。

だが最近、前々日(早める)職員が増えている。この流れを生んだのは、90年代半ばの課長補佐クラスを中心とする女性キャリア官僚の提言だ。彼女らは、管理職への女性登用増を目指し、人事院が昨年2月に初めて実施した「女性職員管理職養成研修」の1期生。いずれも働き方を悩んでおり、同6月、「長時間労働を前提とした働き方は、子育て期の女性をはじめ、時間

国会対応議員も協力

国会質疑対応、国会の委員会などの質疑では、議員が事前に質問要旨を通告し、担当部署で答弁を作成する。関係部署との協議などが必要なため、通告から答弁の完成まで、8、9時間はかかる。通告が質疑前日の夕方の場合、担当者は未明まで作業をすることがある。



国会の質問が来たら忙しさを増した。残業を減らすべく、霞が関の職員は心をこめて取り組んでいる(右手前、議員)(左、午後、議員のデスクで、国会担当の職員が心をこめて取り組んでいる)

通告が前々日夕方	18:00	議員が質問要旨を通告	前々日 18:00
前日 21:00	内容の確認、省庁内での担当割り振り	前日 12:00	
前日 22:00	答弁案作成	前日 13:00	
前日 23:00	関係部局協議など	前日 14:00	
当日 3:30	答弁完成印刷	前日 18:30	
当日 7:00	答弁者へのレクチャー	当日 7:00	

の制約を抱えた議員が増える中では続けられないとして、働き方の改革を提言。国会議員に対しては、質問通告を前々日の午後6時までに済ませようとした。

「この働きを受け、与党内で前々日(早める)の質問通告を徹底するよう申し合わせたほか、野党でも理解を示す議員が増えてきた。提言に関わった環境省の内藤冬菜さん(41)は「議員の先生たちも、最近では応援してくれる人が多いと感じる」と話す。

当番制

国会対応で独自の対策を講じる例もある。

厚生労働省雇用均等政策課の課長補佐、河村のり子さん(39)は今年1月、課が関係する質問の通告が突然増えた場合に備え、河村さんを含む国会担当の職員が交代で一人ずつ残る「当番制」を導入した。1か月分の「当番表」を作り、急な質問通告には当番が対応する。課長と、当番の時の河村さんには、当番が作成した答弁をメールで確認し、必要に応じて指示をする。担当法案の審議では全員が遅くまで残るが、日程が決まっただけで準備ができる。問題は、あるかわからない急な質問通告のために、職員が居残りを強いられるようになった。河村さんには、夜中の残業の手を青尻中。青尻休業から復帰直後は国会対応を免除されたが、その仕事を任せられた部下たちが疲弊するのを見て、「食拍を軽減し、みんなが分かち合う」方法で「当番制」を考えたい。

霞が関の働き方の改革に取り組んできた、財務省広報室長の高田英樹さんは「官庁の長時間労働を削減する上で、国会対応の問題は避けて通れない。これまで同僚から国会に改革を求めることは難しかったが、女性官僚が提言したことで共感を寄せられたのではないかと。ただ、官庁内で効率化するべき点も残っており、不断の取り組みが必要だ」と強調する。